

久慈農業改良普及センターだより



普及センター情報 207号

平成21年3月19日発行 久慈農業改良普及センター

TEL: 0194-53-4989 FAX: 0194-53-5009

e-mail: ce0026@pref. iwate. jp

～お知らせ～

普及センターホームページが移転しました。検索画面にて・・・

久慈農業改良普及センター 公式

検索

○ 洋野町で家族経営協定調印式が開催されました！ ○

2月24日、洋野町役場大野庁舎において、4組の家族による合同調印式が開催されました。

酪農専業の清水さん、野菜・農産加工複合経営の長根さんと村山さん、野菜専作の北村さんの4家族が家族経営協定書に調印し、洋野町副町長、洋野町農業委員会会長、久慈農業改良普及センター所長の3名が立会人として協定書に署名・捺印しました。

締結した協定内容は、経営目標・家族会議やミーティングなどの作戦会議実施、経営や暮らしの役割分担・労働報酬・労働時間等です。また、今回8年ぶりに締結内容の見直しを行った北村さんは、さらなる経営改善に向けて21年度の具体的な取り組み目標をまとめた単年度実行計画も作成しました。

締結者を代表して清水繁勝さんが、「我が家の目標」を発表して意気込みを示し、立会人の方々からは激励の言葉をいただきました。中でも合同調印式に先立ち、2月9日に家族4人で家族経営協定を締結した農業委員会の奥寺会長は、「これから共に頑張っていこう」とエールを送りました。

家族経営協定を締結した皆さんの今後益々の活躍が期待されます。



農業委員が見守る中の調印式

○ 農村起業活動のステップアップを ○

農村女性の起業活動の取り組みが活発な久慈地域で、さらにステップアップを希望する起業家27人を対象に「久慈地方農村起業活動実践講座」を久慈農業改良普及センター主催で実施しました。

この講座は、1～2月の3回コースで、テーマを『起業活動の点検と計画づくり』『商品開発、商品改良』『売れる商品づくり』とし、講義・演習・事例研修・技術研修・消費者との交流等を行いました。

内容は「起業活動ビジョン」の作成と経営チェックシートによる自己診断、表示や衛生管理研修、県内の女性起業家の事例研修、久慈市の製菓業者から各自の加工品づくりへのアドバイス、消費者による味や包装等の評価と意見交換会で、その中で受講者は自分の起業活動の課題を明確化し、その改善への意欲が高まってきたところです。

そこで、今後は、その解決に向けた具体的な活動計画づくり、加工品の原価計算、記帳、情報発信、連携活動等について講座開催や個別指導を通じて、さらに経営発展できるよう支援することとしています。



消費者による加工品の求評会

○ 元気が出ました！久慈地方農山漁村活性化フォーラム ○

2月25日、管内の農林水産業者ら約140名の参加を得て「久慈地方農山漁村活性化フォーラム」を開催しました。

はじめに、久慈地方青年農業賞の表彰式を行いました。自らの経営に真剣に取り組み、地元青年らの仲間づくり活動を積極的に行っている3名（肉用鶏・短角の複合経営、野菜専作経営、酪農経営）が表彰されました。受賞者からは、自己啓発に励み、今後多くの先輩方の指導・助言により、一層の経営発展に取り組む決意が表明されました。

次に、久慈地方農村青年クラブの西君治会長が活動状況を紹介し、今年度の県農村青年クラブ主催の研究発表会で最優秀賞を受賞したPRビデオを上映しました。会場からは、地元で農業に取り組んでいる若者たちの活動に盛んな拍手が送られました。

元気の出る講演会では、(社)葛巻町畜産開発公社顧問の中村哲雄さんが、公社勤務や葛巻町長当時に取り組んできたことを、時にユーモアも交えながら熱く語りかけました。会場からは「やる気、気づき、情報が大切」、「やる気を持って行動する！」「やれば出来る、何事も挑戦することがまず一歩！」という声が聞かれる等、大いに元気が出る講演会となりました。



フォーラム会場の様子

○ 久慈地方酒米研究会 初めての地酒「涼霞」誕生！ ○

久慈地方酒米研究会は地元産米を使った地酒造りを目標に、昨年春から久慈市宇部町で酒造好適米“ぎんおとめ”の栽培に取り組み、その酒米を100%使用した特別純米酒を(株)福来で醸造しました。

この特別純米酒は久慈の霞がかかった幻想的な田園風景をイメージして「涼霞（すずかすみ）」と名付けられ、3月4日に新酒発表会が開催されました。

発表会では久慈地域の酒小売店や酒卸会社、JA新しいわて、久慈市、振興局等約90名が参加し、新酒の名称発表や研究会の活動経過・醸造過程を報告し、次に醸造したての新酒の試飲が行われました。

新酒「涼霞」を試飲した参加者の反応は「すっきりしていて飲みやすい」と好評で、「地酒ができるまで物語があるのがおもしろい」「今後も利用したい」との声もあり、会員は安堵の笑みを浮かべていました。

今後、酒米の品質向上と地酒のPRに励むとともに、消費者との交流を深めながら、いつまでも地域に愛される地酒を目指していきます。



酒小売店に陳列された地酒「涼霞」

○ 久慈地域のエコファーマーが100人を超えました。 ○

2月18日、久慈地方園芸躍進大会においてエコファーマー認定書の交付が行われました。今年度認定されたのは7月に認定された方と合わせて合計47名で、平成21年度のエコファーマー認定者数は101名と、ついに3桁になりました。取得者の内訳で見ますと、管内の品目であるほうれんそう栽培者と産直出荷者が多く取得されており、産直ではエコファーマーマークを付けた商品を見かけた人もいないのでしょうか。

このエコファーマーは、環境負荷を低減し、持続的な生産を実践する農業者のことで、具体的には①堆肥等の有機質資材の施用②化学肥料の低減③化学合成農薬の低減に取り組んでいます。

地球環境や資源の循環に配慮した生産は、これから更に重要さが増してきます。これからのような取り組みが広がり、久慈地域に定着していくことが期待されます。



認定書交付式

○ 技術情報 ○

◆◆ 水 稲 ◆◆

- ★ 育苗作業にあたっては、計画を立て段取り良く作業しましょう！
- ★ 異なる品種が混ざらないように、十分に気をつけて管理を行いましょう！
- ★ いもち予防等の箱施用剤は、原則としてハウス内で使わないようにしましょう。
- ★ 安全・安心な米づくりを進めるため、純情手帳（栽培履歴）に記帳しましょう。

1. 育苗

○育苗培土の準備

自然土を使用する場合には、適正pHの5.0~5.5に調整し、肥料や立ち枯れ予防の粉剤は、播種10日位前までに混和してください。

○種子の準備

自家採種種子は必ず塩水選を行いましょう。自家採種や購入した未消毒種子は、ばか苗病、細菌病類、いもち病等を対象とした種子消毒を必ず行ってください。

○浸 種

適正な水温と日数は12~15℃で10~7日間です。2~3日おきに水を交換しましょう。なお、消毒方法が異なる種子は、別々の容器で行ってください。

○催 芽

温度は30℃を厳守し（細菌病防止対策）、ハト胸状態まで催芽します。

○播種量

1箱当たりの乾籾重の基準は、稚苗で150~180g、中苗で100~120g、成苗で80g以下です。厚播きでは軟弱で病害も発生しやすくなるので、薄播きにしましょう。

○出 芽

加温出芽（出芽機使用）を基本とし、温度は30℃を厳守してください。無加温出芽を行う場合には、被覆資材を使用した保温を心がけましょう。出芽期間が長引くとカビ等の発生につながります。

○緑化～硬化

出芽機を使用した場合には、ハウスに並べてから 2～3 日は寒冷紗等で遮光しながら緑化を行い、その後は徐々に外気に慣らしていきます。

○育苗初期の温度・水管理

日中は 20～25℃、夜間は 5～10℃に保つようこころがけましょう。かん水は原則 1 日 1 回とし、過かん水になりすぎないように注意しましょう。

2. 本田準備

畦畔のかさ上げや補修、水路掃除等、畦畔補修を行いましょう。また、秋にケイ酸質資材を入れていない圃場には、いもち病や倒伏防止等のため散布しましょう。

◆◆ ほうれんそう ◆◆

平成21年度ほうれんそう品種構成

〈作型と特性〉

		1月	2月	3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月	12月
				上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下		
一般作型	クローネ		←→→→ 2月上旬～4/20頃													←→→→ 9月上旬～9月下旬													
	ハンター		←→→→ 2月上旬～4/20頃													←→→→ 9月上旬～9月下旬													
	ミラージュ				←→→→ 4/20頃～5/10頃							←→→→ 7月下旬～8月下旬																	
	プリウス				←→→→ 5/10頃～8月下旬																								
	スーパースター				←→→→ 5/10頃～7月下旬																								
	ジョーカーセブン					←→→→ 7月下旬～8月下旬																							
	クロノス	→																										←→→→ 10月上旬～1月下旬	
寒じめ	朝霧				←→→→ 露地(9月上旬～9月中旬)																								
	冬霧7				←→→→ ハウス(10月上旬～10月中旬)																								

※ ←→→→: 主力作型 ←→→→: 補完作型

平成21年度ほうれんそう品種構成

〈作型と特性〉

		べと病 抵抗性	主な特性
一般 作型	クローネ	R1~7	立性で収穫しやすく、ミストラルよりも株張りがよい。抽苔は比較的遅いが、4月下旬播種では生育不良で抽だいのおそれがあるので注意が必要。
	ハンター	R1~7	立性で収穫しやすく、株張りよく、収量性はミストラルを大きく上回る。秋の高温時に萎凋病が発生した例もあるので注意が必要。
	ミラージュ	R1~7	耐暑性に優れ高温期でも生育遅延等が起きにくい。萎凋病に対しアクティブ以上の強い耐病性をもつ(スーパースターより萎凋病に強い)。播種期:6月まきを除けば幅広く播種できる。
	プリウス	R1~5	やや生育が遅いが、抽たい遅く収量性が高い。萎凋病にやや弱いため、夏播き注意(特に高温時に生育遅延)。低温で伸びにくいので極端な早播きは避けること。
	スーパースター	R1~5	晩抽性、立性で茎葉がしなり折れにくく収穫しやすい。高温期に土壤が乾燥すると、生育が止まりやすいので、かん水するなど土壤水分を保つ。プリウスより萎凋病に強い。
	ジョーカーセブン	R1~7	立性でしなみあり折れにくい。低温で生育が遅くなるので極端な早播き、遅まきは避ける。乾燥で生育遅延しやすいので水管理に注意。スーパースターより萎凋病に強い。
	クロノス	R1~7	低温伸長性に優れ、葉色は極濃緑、耐寒性、耐湿性があり、収量性はブレードよりも高い。温度が高いと軟弱に生育するので、早播きは避けること。

○ 転出者紹介 ○

平成21年3月で久慈農業改良普及センターから転出する職員から、長らくお世話になった皆様へ一言ご挨拶です。



加藤真城
主任農業普及員

異動先
盛岡農業改良
普及センター

山ぶどう、ヤマブドウ、やまぶどう、山葡萄、山ブドウ、りんご。活動の大半を山ぶどうに費やし、様々な取り組みに挑戦することで、生産者、農協の皆様はもちろん、菓子、パン、産業開発、レストラン、仕出し、染め物、陶器、印刷、分析などに関係する業者の皆様、市町村関係者にあっても農政、産業の各部署の皆さんに大変お世話になりました。こちらで多くの皆様にアドバイスいただき活動したことを活かし、今後も普及活動に励みたいと思います。4年間ありがとうございました。



加藤清吾
農業普及員

異動先
農業研究センター
病害虫病除所

希望して異動してきた久慈の地で5年もの長きにわたり仕事をする事ができた幸運に感謝いたします。久慈地方は人が良く、海あり山ありで景色も良く、楽しく巡回することができました。機会があれば、ぜひまた久慈で勤務したいと思っておりますので、その際はよろしく願います。



上野明日香
農業普及員

異動先
県南広域振興局
一関総合支局農林部

久慈での3年間、初めての普及員生活でしたが、久慈地域の人・農業に育てられ、楽しく過ごすことが出来ました。自分の専門である畜産だけではなく、他の作物についても、学ぶことが出来、農業を様々な視点から見る事が出来ました。こちらでの経験をもとに次の職場である一関でもがんばりたいと思います。本当にありがとうございました。異動しても、久慈のサポーターとして応援しています。



高橋彩子
農業普及員

異動先
農業研究センター
環境部

新採用から4年間、新米普及員で右も左もよく分からず普及活動をしてきましたが、たくさんの農家の皆様、農協・市町村の皆様から久慈地域の農業を教えていただきました。微力な私を温かく受け入れてくださった皆様にとっても感謝しております。4月からは研究員となりますが、久慈での経験を活かし、技術をパワーアップさせたいと思います。ありがとうございました。